

テーマ

柔道における自他共栄とは

適用分野

世界各国の柔道人の考え方の理解、柔道観の理解



研究名称

柔道における自他共栄とは

氏名所属

山崎俊輔 教授
全学共通教育センター

内容

●特徴

柔道には、競技だけでなく心身の鍛錬性や道徳性といった人間教育としての価値が求められてきた。スポーツ競技としての柔道の世界的な普及という側面だけでなく、柔道が本来持つ「教育的価値」が、今日の世界の柔道実践者にどのように理解され、受け入れられているかという面についても、我々は常に留意していかなければならないと考える。

●研究内容

これまで各国の柔道の実態調査を行い、各国柔道人のもつ「柔道観」について調査を行ってきた。その結果柔道人の「柔道の教育的価値」に対する認識には一定の共通性が認められると同時に、各国独自のスポーツ観による相違もあることが明らかにされてきた。

各国柔道人グループによるアンケート結果は、柔道の創始者、嘉納治五郎師範が体系づけた「知育」「徳育」「体育」「護身性」「精力善用」「自他共栄」の6つの尺度を元に調査すると何を重要視しているが解り、日本及びヨーロッパでは、嘉納師範が強調した「精神修養」の側面が最も高くなっている。

一方ザンビアの柔道人に特徴的と思われるのは「知力」「護身性」で、隣国との緊張関係や、国内の社会情勢との影響を受けているように思える。

現在、スポーツ界において「フェアプレー精神の喪失」、「ドーピング問題」等の「道徳性の欠如」が問題視され、その解決が叫ばれている。また、一般社会を見渡せば、世界各地で衝突・紛争が後を絶たない。世界の柔道人が「自他共栄」精神の理解を深め、一致協力して、それを実践に結びつけるために努力していかなければならないのではなかろうか。また、柔道にはその様な社会的使命や期待に応えることができるだけの要素を、十分に備えていると考える。

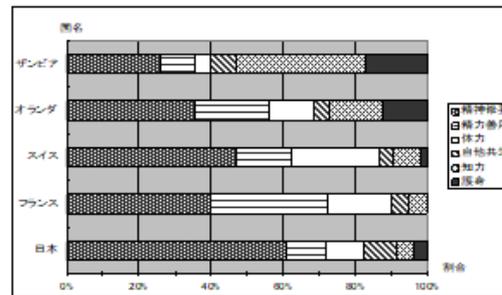


図1 各国柔道人グループによる第一位選択率



図2 柔道の試合風景

キーワード

世界柔道、柔道観、自他共栄、精力善用

連携方法

- 講演
- 研修
- 研究相談
- 学術調査
- コメントート
- 共同研究